

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	社会福祉法人柘野福社会		
事業所名	グループホーム上桂 (さくら)		
所在地	京都府京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000056-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町38番地1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員と一緒に掃除を行い、また、利用者の人間関係に合わせテーブルを配置している。食事は昼食は手作りしているが、夕方から職員が減る日が多い為、夕食はクックデリを利用し、空いた時間は利用者として出来るだけ関わろう工夫している。職員全員が同じ方向を向きケアに取り組めており、利用者の声にも耳を傾け、声掛けや日々の関わりも変化してきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名勝「嵐山」にほど近い閑静な住宅街の茶色いビルの2階が「グループホーム上桂」(2ユニット)です。地域交流では近隣小学校の運動会に参加し、事業所でどら焼きを作りながら利用者との交流をしたり、恒例行事の「感謝祭」ではトン汁や炊き込みご飯を作ったり・介護相談や耳年齢検査・福祉用具等のコーナーを設け年々地域の参加者も増えています。テラは地域の回覧板を利用して頂き更に掲示板利用の話もあり地域との良好な関係を築いています。職員の意見から利用者が楽しく過ごせる策として昨年「カラオケ機」を導入し童謡や懐メロ等を音量に配慮して流し喫茶店の様な雰囲気です。利用者は個々に口ずさみ表情も明るくなり楽しくリビングで過ごす時間が増えて来ています。毎月郵送する家族への便には利用者の日常の様子と家族と共に作成したケアプランの実施状況も報告しています。食事やおやつは利用者と一緒に手作りし夕食のみクックデリを用い利用者との時間を多く持つ工夫をするなど利用者へ寄り添いながら思いを汲み取りケアに反映させる努力をされている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にホーム独自の行動指針を職員で話し合い作っています。事務所や目に付きやすい職員用トイレに掲示し、常に意識してケアに反映させています。	法人の理念に基づき事業所の理念「入居者様の価値観や思いを尊重し生活の主役になっていただく」と行動指針を明確にして玄関や事務所内・職員用トイレ等に掲示しサービスの実践に繋げている。開設5年目に当たり理念を振り返り全職員で確認しながら見直しを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の桂川小学校と交流をしている。また、地域の祭りや運動会には見学に行かせて頂き、年に1回感謝祭を開催し、地域の方にも声を掛け参加して頂いている。	地域の小学3年生のカリキュラムの中での取り組みを通して運動会に参加したり事業所を訪問し利用者と触れ合いながらどら焼きを楽しむ等年4回の交流をしている。包括支援センター職員の協力を得て年1回認知症サポーターの講演で寸劇を行っている。事業所主催の感謝祭ではトン汁や炊き込みご飯を作り地域に呼び掛け参加者も増えている。耳年齢検査や福祉用具の展示等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携しながら認知症の理解や支援について話あっている。今年度は特に桂川小学生に認知症講座の寸劇をするなど、子供たちを通じて認知症の理解を求める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況、事故についての報告を通じて、貴福祉協議会の会長をはじめ参加者の様々な意見をもらい、それをサービス向上に努めている。	会議は「高齢者総合施設」内の3事業所が合同で実施している。会議には利用者・家族・社会福祉協議会会長・自治会長・包括支援センター等が参加し利用状況や行事・事故等を報告し事故発生の原因・分析・対応策を表明している。議事録は入り口の掲示板にファイルにしてさげ誰もが自由に閲覧出来るようにしている。地域の掲示板を事業所が活用させて頂ける事となり広報活動を進めたいと考えている。	会議の議事録は利用者の全家族等にも配布されると事業所のサービス内容をより深く理解して頂く機会となり更なる信頼関係の構築に繋がるものと思われる。事故等の原因・分析・対応策等は2ヶ月間の経過なども報告されると対応策への理解が得られると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があれば市へ直接出向き、事故報告や現状を伝えながら市との協力関係が築けるように努めています。	+	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人内での研修は勿論課題別研修など、あらゆる機会に拘束について学び、拘束をしないケア・サービスを目指すように取り組んでいる。	身体拘束については法人内研修や内部研修でも取り組み身体拘束による弊害や言葉の拘束も含め具体的なケアを正しく理解し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、理解を深めると共に、常に利用者の身体状況などの変化に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、業務を行う上で該当するご利用者が居れば必要性を把握して活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、入居契約書、入居の手引きを準備し説明しています。改定については説明書を提示しご理解いただいています。直接の意見については迅速に対応しています。意見箱の設置、苦情受付窓口の場を設けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族も参加する行事の時に意見を聞いています。ホームから定期的に郵送する便りも活用しながら、意見や要望を聞く機会とし、皆で共有しています。	年1回家族アンケートを行っている。面会時や運営推進会議等色々な機会にも家族等の意見を聞き取るよう努めている。利用者や家族の個々の要望等には迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議だけでなく日常的なコミュニケーションや、引き継ぎノート等によって、職員の意見等を聴く機会を設けている。また、グループホーム管理者会議に代表者も参加し、運営状況や職員の意見等を共有している。	管理者は職員の意見を何時でも聞く姿勢を示しているため日常的に色々な意見を表明している。職員から利用者の楽しみの一つとしてカラオケ機の導入があたり実施している。かつては自室で過ごす利用者が多かったが今は懐メロや童謡等を口ずさみリビングで過ごす時間を楽しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のD○-CAPシートにより自己目標の設定や評価を管理することにより給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では課題別や必要な研修を取り入れ、勉強会として実施している。また、法人の研修では階層別研修に定期的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム3事業所で合同研修を行い、グループワーク等を通じて自己研鑑に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にはご本人の言葉や雰囲気を感じ取りながら、必要としている支援の把握に努めている。日々、ご本人と顔を合わせることで、馴染みの関係と安心感に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学、契約締結時等、様々な場面において、ご家族の意向や要望、不安等を確認し、安心していただけるよう、時間をかけて説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々のコミュニケーションを大切にし、心身の小さな変化等を見逃さないよう配慮している。また、関係職種や関係機関とも連携を図り、支援に必要な情報を収集するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に調理や洗濯をしたり、それぞれの「できること」を活かし、やりがいを感じて頂けるようお声掛けや見守りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際は、利用者様と共に会話を楽しんだり、日々のご様子を報告している。また、必要時には電話連絡を行う等、ご家族様と情報を共有できるよう努めている。また、月1回、利用者様のご様子をお便りにして送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階のガーデンハウスの友人を訪ねたり、1階の帰宅願望の利用者が2階に来て落着いて過ごされたりと、事業所の多機能化を活かした過ごし方を行っている。	日々の会話の中で利用者の馴染みの人や場所を聞き取るよう努めている。外出時に嵐山の漬物店に立ち寄りそこに勤めている家族と偶然出会い名前を呼び合って大変喜ばれた事があった。お互いの嬉しそうな表情から支援の大切さを感じている。	馴染みの人や場との関係継続の支援マップとしてはその人を取り巻く様々な情報(センター方式A-4シート)を取られるようお勧めします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やそれぞれどう感じておられるかを把握し、相性が合わない場合は職員が間に入り交流の橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を下さる家族もおられ、必要に応じて相談等の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には家族にも記入頂くと共に、生活歴や家族構成、趣味、暮らし方の希望などを聞き、アセスメント用紙を用いて情報収集しています。利用者からは々の様子やして欲しいことなど、会話の中などで思いをくみ取り、会議で情報交換しながら思いの把握に繋がっています。	初回面談時に利用者の思いや暮らし方の希望・家族等も含めた意向を聞き取り担当職員が「情報収集シート」にアセスメントしている。利用者との日々の会話や表情・仕草等からも意向や思いを汲み取るよう努めケースカンファレンスで現時点の生活課題を検討・共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント用紙を使用し、ご家族の協力を得ながら、生活歴や生活スタイル等についての情報を収集、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を細かく記入する事で職員間での情報共有を行っている。また、会議でも状態の変化等について検討し、支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、利用者にも参加して頂き、利用者、ご家族の意向を再確認しながら共にケアプランを作り上げるようにしている。	サービス担当者会議は家族の都合を優先し利用者も参加している。介護計画には医療情報も含め夫々の意向を確認し反映させている。日々の介護記録や支援経過記録等からモニタリングして介護計画を見直している。利用者の状況変化に伴っては随時見直し現状に即した支援方法を具体的に介護計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を細かく記入する事と職員同士の引き継ぎをしっかりと行い意見交換をする事で情報共有している。また連絡ノートを使用し、細かい伝達もしっかり行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の支援が受けられない場合やご都合に応じて、通院や入院中の対応等を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への散歩や地域店舗での買い物を極力多く出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続する時は、家族が受診の対応し、家族と情報を共有しています。協力医は週1回と状況により週2回の往診があり。協力医は24時間連絡が取れる協力体制が築かれています。	かかりつけ医を継続受診している利用者は家族が同行し双方からの情報交換と共有を図っている、殆どの利用者は協力医による週1～2回の往診と24時間の協力体制を確保している。歯科の往診もあり歯科衛生士による週1回の口腔ケアも確保し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないが、往診の際は職員が往診に付き添い対応している。また、利用者の何かあればすぐに主治医に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にご家族や病院との間に入り、連絡や報告、相談等の連携を図っています。入院中は面会に行き、状態の変化等の確認や、ご家族やご本人の相談に対応できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で、本件に関しての聞き取りと、事業所に出来る事の説明を行っている。また、状態変化時は改めてご家族の意向を聞き取り、ご本人やご家族の思いに沿った支援を提供できるように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた支援については入居時に事業所が支援出来る範囲を家族等に説明し了解を得ている。利用者の状況変化に伴ってはその都度医師の意見を踏まえ家族等と話し合い可能な限り家族の思いに沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、緊急時に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の事業所と合同で年2回消防署立ち合いの下、昼夜を想定した訓練を行っています。通報、初期消火、避難誘導等の役割を分担し、それぞれの動きを確認しながら実施しています。	昨年浸水被害を経験し、当事業所において消防署が主催し各関係者(20名)による地域の水害時対策について話し合っている。近隣住民の水害被災時における一時避難所として当事業所の2・3階を提供することとなった。防災計画に基づき消防署の立ち合いのもと年2回避難訓練を実施している。備蓄も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、傷つかないような声掛けを心掛けている。また、声掛けを不適切だと感じる時は、お互い注意出来る環境作りを目指している。	運営規程の運営方針には「利用者一人ひとりの意思及び人権を尊重し…」と明記し「プライバシー保護」についても研修を行い意識を高める中で日々の振り返りをして対応している。特に排泄誘導時には尊厳に配慮し難聴傾向の利用者が多いので耳元で伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で表情や言動、行動から思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者優先に考えて行動するように心掛けている。しかし、職員が不足している日は、こちら側主体に動いてしまっている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で化粧される方については、希望に応じ化粧道具を揃えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員の当番制になっており、献立は当番が利用者の声を参考に立てている。食材はユニット毎に調達している。調理・配膳・片付け等は可能な限り利用者に参加を勧めている。	食事は利用者に食べたいメニューを聞き食材を近隣のスーパーに発注して作っている。利用者には食材を切ったり炒めたり盛り付け等を一緒にして貰っている。おやつはホットプレートを用い皆で囲んで手作りする事が多い。外食はレストランも近く度々出掛けたり回転寿司では意外な量を食される事もある。誕生日にはスポンジに皆でデコレーションしたり出前寿司やブリ解体職人を招き豪華な雰囲気等を味わって楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方には、好みの飲み物を提供することで水分量を確保したり、高栄養食品を随時活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には声掛けし、口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方は、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の間隔を出来るだけ掴み、排泄介助するように取り組んでいる。	利用者の排泄間隔を把握し表情や仕草等からも汲み取ってトイレでの排泄を目標に自立に向けた支援をしている。目立った改善事例はないが転倒予防と機能維持を目的にツツパリ棒を居室内に取り付けて自力でトイレに移動し自立されている利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取を心掛け、食事で食物繊維の多い物を摂取出来るよう考えている。また、オリゴ糖を試してみたり、トイレ介助時は腹部マッサージを行い、便意を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週2回入浴して頂いているが、入浴拒否をされる方が多い為、曜日はある程度決めてはいるが、気分がのらない時は曜日や時間帯を考え対応している。	入浴は週2～3回・1日3人程度を目途として支援している。お湯はその都度交換し常時清潔な状況でゆっくりと楽しんで貰っている。利用者の要望に応じ同性介助にも対応している。拒否される利用者には日や時間・声掛け職員等を替えたり試行錯誤して柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律の消灯時間等はもちろん設定せず、各位の習慣に応じて就寝されている。お好きな番組があれば伝えたと観られることもあり、個別で支援するよう心がけている。日中も疲労感の有無など観察に努め、必要に応じ適宜休息を勧めるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用のファイルを作成し、いつでも薬や疾病等が確認出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や食事は出来るだけ行うようにしている。しかし、あまり個々に合わせた行事等は出来ていない為、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣を散歩をしたり、畑にベンチを置き外気に触れる機会を作っています。また、スーパーや喫茶店へ出かけたり、希望に添って利用者と一緒に買い物に行っています。行事の取り組みの中で家族の協力も得ながら外食やドライブ、花見等に出かける支援をしています。	日常的には近隣の散歩やスーパーに買い物に出掛けている。畑仕事に詳しい職員に教えて貰い、利用者と一緒にじゃが芋や安納芋を作り畑にベンチを置き楽しみを兼ねた外出の機会を工夫している。道路を隔てた前のレストランへや近くの喫茶店等にも出掛けたり、花見や紅葉狩り等も支援している。4月より運転出来る職員が増えるので今まで以上に個別外出が出来ると期待している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと言われる方には家族と相談し、お小遣い程度に所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、先方の都合も確認の上、ダイヤル代行や取次などは適宜行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快にならないよう出来るだけ環境に配慮しながら居心地の良い空間作りを心掛けている。しかし、季節感を感じれるような空間作りがあまり出来ていない為、取り組んでいこうと話している所である。	リビングは採光が良く室温・湿度共に快適に管理している。利用者の様子が常時把握できる対面キッチンからは味噌汁や副食等の香りが漂い生活感がある。大画面のテレビの横にはカラオケ機を置き適度な音量でナツメロや童謡を流し口ずさむ利用者もあり明るく喫茶気分を演出している。座席は利用者の状況に応じて配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で過ごせる配席があり、その中でも関係性を見て微調整を行っている。皆で一卓に集い団欒等が出来る場面も作るよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用具を持参下さるよう伝え、実際そのような品々が各室に置かれている。また、大切な人との写真を持参頂くよう依頼し飾ったり、余暇活動にて本人様が制作された装飾品も本人様と相談しながら飾り、居室の彩りに活かすなどの実践に努めている。	居室にはトイレと洗面台を設置している。使い慣れたベッドを持ち込まれる利用者もある。車いす移動が充分出来る広さがありパイプ製のパソコン台に置き時計や雑誌等を置きハンガーラックに衣類を掛けて利用者が生活しやすく設え工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は歩行する時、持ちやすいように家具やテーブルを配置している。		